

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成26年6月発行 No.41号



ノボタン

白浜小学校校庭内にある植物への名札付けを支援

白浜小学校から校庭内にある植物に名札を付けて環境教育などの教材として活用していきたいとの要請があり、当センターとしては3月12日(水)に植物名の事前調査を行い、3月24日(月)に生徒と父兄数名で白浜小学校の校庭にある植物への名札付けを森林環境教育の一環として支援しました。

参加者は、事前に調査した植物名の一覧表と場所を記載した図面を参考にして、校庭内の植物にひとつずつ名札を付けていきました。

生徒達は、最初の内はそれぞれの植物名を聞きながら名札を付けていましたが、同じ植物を見つけると自分たちで進んで付けるようになりました。中には間違いなども少しはありましたが、分からない植物や似たような植物があると積極的に聞きに来たりしていました。

H26年度も数校からこのような要請が来ますので、今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。



船浦中学校の「西表島の春を探そう2014」を支援

3月19日(水)に、船浦中学校の行事である「西表島の春を探そう2014」が実施され、当センターも森林環境教育の一環として支援しました。

当日の参加者は、1・2年の生徒22名と職員、保護者、支援者ら合わせて総勢37名で、8時15分に中学校前で全体出発式を行った後、ユツン川まで移動し9時に出発しました。

ユツン滝の上までの登山をする間、動植物を観察しながら11時過ぎには滝の上に到達しました。滝の上で昼食を取った後、エビ取りなどを楽しみました。13時頃には下山を始め滝壺で記念撮影をし、途中の川で泳いだりしながら15時過ぎ頃には登山口に着きました。生徒達は、各々がそれぞれの西表島の春を見つけて楽しんでいました。



「ガイド講習会」を開催

3月11日（火）に当センターと沖縄森林管理署の主催で、森林環境教育の拠点施設として、平成20年度に仲間川の支流の北舟付川（ニシフナツキカワ）に隣接するマングローブ林及びサガリバナ林内に整備されている木道（延長150m）等の利用を希望する者を対象に「ガイド講習会」を開催し、47名の方々が受講されました。

講習会では木道の利用に当たっての基本的な注意事項などを伝えるとともに、環境省西表野生生物センターから「イリオモテヤマネコの現況」と沖縄森林管理署から「屋久島世界遺産の現状と課題」という講義が行われ、今後の西表島の進むべき道などについて考える良い機会になったのではないかと考えています。



西表島にてギンネムキジラミが大量発生

西表島の南風見海岸の調査地においては、3月頃には、ギンネムの葉がすべて落ち枯死したように見える状況が広範囲に広がっていました。近寄って確認してみると、体長2mm～3mmのギンネムキジラミが大量に発生していました。ギンネムキジラミは小さなセミみたいな形をしています。

文献によると、このギンネムキジラミが大量発生するとギンネムが一斉に枯死するといわれていますが、西表島においてはそのような状況にはなっていません。葉がすべて落葉し枯死したように見えるギンネムも数週間も経過するとギンネムキジラミがいつの間にか居なくなり、やがては新芽が出始めて息を吹き返します。

西表島にはギンネムキジラミを捕食する外来種のハイロテントウムシが定着していますが、今回はダングラテントウムシを確認しました。

また、小笠原島では、ギンネムキジラミは外来種の肉食爬虫類グリーンアノールの餌

資源となっていると言われており、西表島にもグリーンアノールの侵入が危惧されます。



仲良川のマングローブ林のモニタリング調査を実施



仲良川に設定したマングローブ林のモニタリング調査を2月25日に実施しました。

調査結果については、今回8本の新規枯損木が確認され稚樹から成長した2本の成長木を確認しました。今回の新規枯損木はプロット内に散在して確認されました。

地盤高調査では大きな変化はありませんでしたが、川岸は淵で急斜面となっているため洪水の影響を受け浸食されることが予想されます。また、洪水時に河川からの土砂流入（砂質土）も予想されることから、生育環境の変化を注視していく必要があります。

平成 25 年度海岸林自然再生試験地の成長量調査を実施

2月21日、26日、27日、海岸林自然再生試験地（調査区1～調査区4）において、自然再生状況を把握する成長量調査を実施しました。

海岸林自然再生試験地は、侵略的外来種である「ギンネム」が侵入している海岸防潮林を、自然災害に強い在来樹種の森林に再生させる道筋を付けるためのものです。

試験地における生育状況は、在来樹種の「オオバギ・オオハマボウ」などの早生樹は台風被害を乗り越え一段の成長を示しています。

しかし、「ヤンバルアカメガシワ」は台風被害の影響か、他の成長の早い樹木の被陰の影響なのか不明ですが、立ち枯れが多少目に付きだしました。

調査区3については、去年の台風時の高潮により調査区が冠水し、海水がしばらく貯まった状態になったことにより、テリハボク・フクギ等の一部に枯れが生じていました。

将来の森林の主役として期待する「テリハボク・フクギ」は確実に生育していますが、オオハマボウなどの成長の早い樹木からの被陰や、ツル・カズラ類の巻き付きに注意すれば今後の成林が期待できると思われます。



平成 25 年度ヒナイ川・西田川の利用状況調査報告



2月期の利用状況調査をヒナイ川は7日（金）、西田川は21日（金）に実施しました。利用状況は、ヒナイ川がカヌーツアー7組、利用者数28名（ガイド含む）で肌寒い日でしたが、小さい子供を背負って滝壺に行く人や、滝壺で泳ぐ人もいました。

一方、西田川は一時雨の降る中でしたが、カヌーツアー2組、利用者数12名（ガイド含む）でした。中には、小浜島のホテルスタッフの若者が日帰りで来ていました。

全国各地から若者から熟年世代まで幅広い年代の方々が訪れており、段々と利用状況が向上しています。



ノボタン

乾いた草地、林縁などに生育し、高さ1-1.5mの常緑の低木です。枝は四角柱状で、やや柔らかい毛が付いています。葉は対生し卵形や長楕円形です。葉は主脈と側脈が目立ち、長さ6-12cm、幅2-6cmです。葉の両面にやや柔らかい毛があり、葉の縁は全縁です。花は、赤紫色まれに白色で、径6cm程度です。

西表島の似たもの植物

コウトウシュウカイドウ Vs. マルヤマシュウカイドウ



| | |
|-------|-----------------------|
| 区 分 | 草本類 絶滅危惧Ⅱ |
| 分 布 | 石垣島、西表島、与那国島、台湾、フィリピン |
| 葉 の 形 | ハート形 |
| 葉 の 縁 | 鋸歯 |
| 葉 の 先 | 鋭尖形 |

| | |
|-------|------------------|
| 区 分 | 草本類 準絶滅危惧 |
| 分 布 | 石垣島、西表島、台湾 |
| 葉 の 形 | |
| 葉 の 縁 | 鋸歯 |
| 葉 の 先 | |

| | |
|---------|----------------|
| 葉 の 種 類 | 単葉 |
| 葉 の 付 方 | |
| 葉 の 基 部 | ハート形 |
| 実 の 種 類 | 蒴果 |
| 花 ・ 萼 色 | 白色、 淡桃色 |

| | |
|---------|----------------|
| 葉 の 種 類 | 単葉 |
| 葉 の 付 方 | 互生 |
| 葉 の 基 部 | |
| 実 の 種 類 | 蒴果 |
| 花 ・ 萼 色 | 白色、 淡紅色 |

説 明
 山地の樹林の下に生え、高さ 40-80 cmの多年生の草本で、根茎を這わせて葉と根を出します。葉は円形で径 8-14 cm、葉の縁は鋸歯があります。花は白色や淡桃色でまとまって咲き、変わった形をしているので目立ちます。

説 明
 山地の樹林下に生える高さ 30-40 cmの多年生の草本で、根茎を這わせて葉と根を出します。葉は円形で長さ 10-15 cm、葉の縁は浅裂し、鋸歯があります。**コウトウシュウカイドウ**とそっくりですが、**葉の切れ込みなどで見分けることができます。**

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
 TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

